

第2回八戸市市政評価委員会会議録

日 時 平成 21 年 5 月 22 日 午後 1 時 30 分
場 所 八戸市庁本館 3 階 八戸市議会第 2 委員会室
出席委員 6 名 辻委員長、蛇口副委員長、上田委員、関委員、藤村委員、吉田委員
事務局 高島総合政策部長、大坪総合政策部次長、石田政策推進課長
佐々木主幹、谷崎主査、大村主事

1. 開 会（午後 1 時 30 分）

●司 会 大変お待たせをいたしました。それではただ今から、第 2 回八戸市の市政評価委員会を開催いたします。

本日の会議でございますが、委員を含め十数名の方がご出席でございます。八戸市市政評価委員会設置要綱第 6 条第 2 項によりまして、会議が成立することを報告いたします。

また本日の会議は、お手元の次第に沿って進めさせていただきたいと考えております。よろしく願いをいたします。

それでは、資料のご確認をしていただきまして、本日の会議に入りたいと存じます。本日の資料でございますが、配付資料一覧表のとおり、次第、席図、会議資料、それから資料 3 の質疑回答表、資料 4 の満足度アンケート調査結果、それからまた資料 5 のマニフェスト項目の体系表、資料 6 のマニフェスト評価書（評価作業用）、それから資料 7 マニフェスト評価書となっております。過不足等がございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは議事に入ります前に、辻委員長からご挨拶をお願いしたいと思います。よろしくお願ひします。

●委員長 本日はお忙しいところお集まりいただきましてありがとうございます。回数に限られた委員会ですけれども、今日は評価方法の決定と、基礎作業の開始ということになりますので、どうかよろしくお願ひいたします。

●司 会 はい、ありがとうございました。それでは引き続き、辻委員長に議事の進行をよろしくお願ひしたいと思います。

2. 報告案件

●委員長 それでは、まず報告案件から始めたいと思います。それでは報告案件 1、実施事業等への質疑応答につきまして、前回の会議で事務局から説明のあったマニフェストの実施状況等につきまして、委員の皆さまからご意見、ご質問が提出されております。その点につ

きまして事務局の方から説明をお願いします。

●事務局 それでは質疑回答の方、資料3の回答表に基づきましてご説明いたしたいと思
います。

委員の皆さまから質問、意見等をいただいております。大きく分けると四つございま
す。1ページから始まります①実施事業の区分修正意見というものと、3ページになります
けれども②評価に関する意見。そして4ページ③実施事業の内容に関する質問、6ページか
らの④数値目標の内容に関する質問ということでいただいております。

ここでは①②、区分修正や評価に関するご意見についてご説明いたします。あと、事業
内容等についての質問については、後ほどご覧いただければと思います。よろしくお願
いいたします。

1ページですけれども、まず公約事業番号の1、1-2八戸市種差海岸ビジョン策定事
業、そして3のフィールドミュージアム八戸策定事業。また公約事業番号68-2、危機管
理体制の整備と具体的にはこの三つの事業が指摘のあったところなのです。意見といたしま
して、これらの事業に限らず、実施事業が計画の策定や組織の設置となっているものにつ
いては、これからの継続性が評価に当たって必要と考えられる。そこで計画の策定が実施済
ではなくて、実施中とした方がいいのではないかと。また下の方にもありますけれども、進捗
状況が実施済になっていて、今後予定に引き続き実施予定とある。これらと実施中の違いと
いうことで、なかなかわかりにくいというご指摘であったろうと思います。

回答の内容ですけれども、委員の皆さまからのご指摘のとおり、計画の策定や条例の制
定、また組織の設置等が実施事業になっているものについては、その後に計画や条例に基づ
く事業、また組織の活動が継続されているという場合には実施済ではなくて、実施中とい
うことで区分をしたいと思います。それらと同様の視点に立ちまして、前回実施済と区分し
ていたものについて、

以下の事業についても実施中ということで修正をしたいというふうに考えております。
1-01八戸市観光推進本部の設置から、92-01市民相談アドバイザーの配置までの以上につ
いては実施中ということで修正をしたいと思います。

次に、公約事業番号の8ですけれども、こちらの資料6 マニフェスト評価表の中の8ペ
ージになりますので、併せてご覧いただければと思います。

意見ということで、若者が夢中になれるような仕掛けの創出ということですが、
今の活動の現状からいけば検討中ではなくて実施中ではないかということでご意見をいただ
いております。

これに対しましては、八戸市中心市街地地域観光交流施設の中に、若者の交流拠点とし
ての機能を設けて、若者が夢中になれる仕掛けの創出に繋げることを目的としているとい
うことで、現段階はそれに向けての検討段階であろうということで検討中というふうに区分し
たものでございます。

次に2ページをご覧ください。公約事業番号18-01中心街における福祉施設の立地促進
ということで、これは評価表の15ページにあたりますので併せてご覧いただければと思

ます。意見といたしましては、検討中ということになってはいますが、実施中ではないかと、この違いはどうだろうということでのご意見をいただいております。回答の方ですが、この実施事業名は福祉施設の立地促進となっているのですが、マニフェストでの記載は福祉施設の市街地移転ということになってございます。中心街には現状でも多くの福祉施設が立地しておりますけれども、福祉施設等の市街地移転につきましては、アンケート調査を行った結果、事業者の皆さまからは移転の意向が少ないということで、具体的な事業には至っていないということで、検討中ということと区分をさせていただいております。

次に公約事業番号の26-4、企業家育成事業についてです。こちらでも評価表の24ページになりますので、併せてご覧をいただきたいと思っております。意見ということで、実施済という区分であるのですが、同じ商工労政課で担当して、県との連携というものもあつたりして、継続していれば実施済ではないのではないかとということでのご意見をいただいております。回答ですが、企業家育成事業については、事業の見直しによりまして、機能の一部をアントレプレナー情報ステーション事業ということで移行するという形で、企業家育成事業については廃止という扱いにしております。事務事業を整理する上でも、別の事業ということで管理をしておりますので、企業家育成事業については実施済と。それを受けて始まったアントレプレナー情報ステーション事業については新規ということで、実施中ということで区分をしています。

以上が進捗状況の区分の修正についてのご意見でした。

次に公約事業番号の7-01、観光ボランティア育成事業についてです。こちらでも評価表の8ページになりますので、併せてご覧をいただきたいと思っております。意見として、新規という扱いの区分になってはいますが、拡充ではないかというご意見でございました。確かに観光ボランティアというのは従来からありますけれども、育成をするという事業については19年度から始めたということで新規に区分をさせていただいているというところでございます。

次に全般の話なのですが、事業区分の判断というのは、委員会ではなかなかできない部分なので、事務局に任せるべきと。先ほどの1点のみが事業区分の変更についてのご意見でございましたので、他にご意見があればお聞かせいただければと思います。

次の3ページをご覧ください。評価に関する意見ということで、3点ほどいただいております。

マニフェストを初めて導入されて、その従来の行政との事業とかけ離れたものが持ち込まれたことはというふうなご意見でございました。回答ですが、マニフェストに掲げられた施策は、市長の当選によりまして行政の仕事としてやるべきものになっている。それぞれの施策を具体化する過程では、総合計画への落とし込み等の作業を行いながら、市の施策として今取り組んでいるところです。なお、行政と事業とかけ離れた点はございませんということでございます。

2点目ですが、八戸市の社会情勢の変化や突発的な事態に応じたり、市民の声などによるマニフェストに掲げていない課題への取り組みに対しての評価はしてはいけないのかというご質問でございました。今回の評価委員会での評価というのは、マニフェストの達

成状況についての評価であるということをございますので、マニフェストに掲げた取り組みについて評価をしていただきたいというふうに思います。

三つ目ですけれども、市民の立場からの評価ということで、どんな対応をすればいいかというご質問でしたけれども、この後評価方法の案をご説明いたしますので、委員会の場でご議論いただければというふうをお願いしたいと思います。

以上が、質疑回答の中の区分修正の意見と評価に関する意見ということで説明を終わります。

●**委員長** それでは、最初の実施事業の進捗状況区分の修正意見に関する点ですが、これについてはよろしいでしょうか。

私の方から1点、これ仮に実施中となると、いわゆる実施率の計算をするときに、実施済と実施中は数え方が同じになるということですか。そこは言い方になるということですね。

それから、区分修正意見に関しまして、委員会ではもちろん十二分に精査するということはできないと思うのですが、しかし基本的には事務局を信頼しますけれども、やはり気になる点、特に自分で関わっている事業等につきましては、この新規・拡充・継続ですね。ご指摘いただくと、今回のように実施済、実施中の区分の仕方のように、一転することによって全体で精査することもできますので、皆さん逐次全事業を見て、逐次対比をさせて、全部検証してくださいということではありませんけれども、気になる点は引き続き最終案が確定するまでご指摘いただければというふうに思っております。

この点につきましては、いかがでしょうか。これでよろしいですか。では、このとおりで修正させていただきます。

それでは、次に評価方法でご指摘いただきました3ページのところですね。これの方につきましては、どうでしょうか、皆さんの方で。

これは報告案件2を説明した方がいいのですか。それとも、これはこれで議論した方がいいのですか。関連はするのですよね。

●**事務局** 一つの部分は、評価方法の中でというふうな事です。

●**委員長** 今回それに該当になる③のところになりますが、基本的には市民の立場ということで、今回は3重にチェックする形になっていると思います。一つは、やはり全体としてとにかく市民がどう感じているかということ、今少し報告案件2の中にありますけれども、満足度調査という形で必ず聞くようにしています。全ての市民が全ての施策に必ずしも精通しているわけではありませんが、しかし一定の数の市民がどう答えているかということは、やはり重視するべきだということで、この市民満足度調査の結果を必ず書くようにしているというのが1点です。

それから2点目につきましては、このマニフェストの構成自体が、参画というものが一つの大きな柱になっています。ですから、市民との直接行政の関わりということにつきましては、もちろんⅠもⅡも、ⅠもⅡのところも関わっていますけれども、同時にⅢのところ、

それ自体別立てで評価する形になっていて、これはこれでそれ自体評価しようという構成になっているというのが2番目であります。問題は1番、個々の事業によってどういう影響を受けたり、どういう便益を受けたかということにつきましては、それこそ今日これから指標を確認していくことになっていきますが、やはり皆さんが心の中でどういう影響を与えたか、今回出ていく指標の中で、主だったところが反映されているのかどうなのかということ、逐次気になるところをご指摘いただくという形で反映させていくということしかないのではないかと。ですから、投網を掛けるような形では満足度調査、それから部門別ではⅢのところと、それから個々の事業につきましては個々の事業の指標の中で、これで全体の事業変化なりそのなりを着実に見ていけるかと。この三つの構えで議論していくということになると思うのですが、どうでしょうか、いかがでしょうか。

● **B委員** すいません、今の満足度調査という件はよく分かるのですけれども、Ⅲとかはどういうところのことですか。

● **委員長** このマニフェストの全体の、ローマ数字Ⅲの三つの領域に分かれていまして、活力の創出と、安心の確立と、行革と参画ですか。ここでいう市民の立場というのは、この1とか2も含めて3なののですけれども、この中で特に市民の立場ということで、参画が別立てで、3で立てられているので、もちろん全体の活力や安全に関わる市民の利益も見ますけれども、とりわけ市民についてⅢのところ、別立てで検討しましょうと、こういう形に今なっているということです。

マニフェストの構成なのですよ。

● **委員B** 先生が見ておられる資料はどれですか。

● **委員長** 資料6です。

● **委員B** これですか。

● **委員長** 一番分厚い、評価作業用の。

● **委員B** いっぱいありますよね。

● **委員長** ローマ数字ではありませんでした。それが諸悪の根源でした。申し訳ございません。普通の数字でした。

● **B委員** この三つの部分についての。

● **委員長** この内特に行革と参画の、この3の項目の中に直接市民との関わりのところが、

比較的やってくれているということですね。ですから、見方によっては市民が参画したり、評価したり、市民の立場でどうかというのは、最終的には活力だとか安心に反映されるので、これ自体は評価しなくてもいいのではないかと考えるかもしれませんが、今回はこのことを非常に重視して、このマニフェスト上の構成もこうなっていますので、特に市民の立場から普通の数字の3で評価するようにしているという構成になっているということです。

よろしいでしょうか。あとは今回、私もマニフェストを改めて見まして、今日の回答にありましたけれども、現市長さんになってから良い意味でも、悪い意味でも行政のキャリアがあって市長になられているので、何と云うか、そう突拍子もないと言いますか、どう考えてもちょっと実現できそうもないとか、それからこれどうやって評価したらいいのかというふうに評価する方も頭を抱えてしまうような、そういうものはやはり比較的少ないような印象で、今日の回答どおりの印象ですけれども、その中でも、しかし果敢に挑戦的なチャレンジの目標も掲げているので、挑戦したものに関しての中にはやはり達成できないというのも事実です。

よろしいでしょうか。それでは続きまして、実は今の話とも少し関係するのですが、報告案件②、満足度アンケート調査の結果について事務局の方から説明をお願いします。

●事務局 それでは恐れ入りますが、座って説明をさせていただきたいと思います。それでは資料4という、満足度アンケート調査結果という資料をご覧いただきたいと思います。それでこの2枚、この中の具体を説明する前に、その2枚を開きますと参考資料ということで、第5次八戸市総合計画有識者アンケート調査報告書というものが添付されております。まずそちらで先にご説明をさせていただきます。

こちらの報告書の1枚を開いていただきまして、1ページをご覧願います。まずこの報告書の調査の概要でございます。まず1番が調査の目的ということでございまして、この調査は前期推進計画の5年間で総合的に取り組む施や矢事業について、これまでの取り組みによる成果がどの程度現れているかというのを把握しまして、総合計画の進行管理に役立てることを目的として実施したものでございます。

そして調査対象、3番でございますが、この第5次八戸市総合計画の策定に携わった八戸市の総合計画審議会委員、それから専門部会委員、また戦略プロジェクト委員会委員の計144名の方と、それから市政モニター94名の方ということで、有識者238名を対象としてございます。

調査期間でございますが、こちらの報告書は21年4月15日から5月11日までの期間で実施をしたものでございます。

それから回収状況でございますけれども、有効回収率につきましては63.4%でございます。

そしてこの調査自体なのですが、平成18年度に総合計画を策定いたしまして、平成19年、平成20年、平成21年ということで、今回で3回目ということになります。

それでは2ページ、3ページをご覧いただきたいと思います。こちらのアンケート結果といたしまして、ここの2ページから3ページにかけては住民自治の推進・自治体経営の強

化という分野につきまして諸々の満足度、満足度の得点というものを記したものでございます。

少し具体のところを、恐れ入ります6ページから7ページをお開き願います。この6ページから7ページにかけては、産業・雇用分野についてのアンケート結果が掲載されておりまして、まず7ページの方をご覧いただきたいと思いますが、ここでは受け入れ体制の充実、その産業雇用の中に更に分野がございまして、例えば受け入れ体制の充実、八戸ブランドの育成等、そういった各行政分野での満足度の得点を整理したものでございます。まず、この点線の四角の中をご覧になっていただきたいのですが、十分満たされている、これは設問でございまして、この中の答えの部分で十分満たされているというのが3点、まあまあ満たされているというのが2点、そしてあまり満たされていないを1点、そして満たされていないといった場合には0点ということで、回答者の方の平均の満足度を記載したものとなります。図の産業・雇用分野での満足度の得点というところをご覧になっていただきたいのですが、まず行政分野の項目別でご説明いたしますと、上が受け入れ体制の充実というところなのですが、こちら下から平成19年の満足度の得点になります。平成19年度は1.52、少し見難くて大変恐縮なのですが、そして真中が平成20年の数字でございまして1.64、そして21年は1.58ということで3年間の推移をここに掲載してございます。

それから次の八戸ブランド育成も、下から1.08、1.28、1.49という推移等々、質問はこの受け入れ体制の充実、八戸ブランドの育成等こういった単位でその満足度について聞いていた内容となっております。

それでは、今度は先ほどの資料4の2枚ものに戻っていただきまして、そして満足度アンケート調査結果という資料の内容をご説明いたします。この資料は、先ほどの総合計画の有識者アンケート調査結果をマニフェストの三つの柱、それから24項目のマニフェストの項目に合わせて整理しなおしたものでございます。少し具体的にご説明いたしますと、1ページは公約である三つの柱の一つである活力の創出ということで、こちらの数字は平成19年がトータルしますと0.93、平成20年が1.04、平成21年が1.06というふうになってございます。そして、さらにこの三つの柱にマニフェスト項目といたしまして、1-①来訪者・観光客の招致とおもてなしサービスの推進、以下1-⑧多文化都市の推進とスポーツの振興まで八つの項目で構成されてございます。こちら各々マニフェスト項目別に、平成19年、平成20年、平成21年と数値を出していると。そして右側をご覧になっていただきたいのですが、右側は行政分野ということで、先ほどの有識者アンケート調査から、こちらの八戸ブランドの育成ですとか観光PRの推進、受入体制の充実、観光資源の充実等、来訪者・観光客の招致とおもてなしサービスの推進に関連する項目といたしまして、これを平均したものとして集計したものでございます。

そして2ページをお開きいただきたいと思いますが、2ページは同じように、先ほどの三本柱の二つ目の安心の確立、それから三つ目が行革と参画ということで、各々の数値を集計してまとめたものでございます。

それから三つ目の行革と参画の方の右側、19年の数字が無いものは、こちらの一部平成20年からアンケート調査が始まったという分野でございまして、この部分は空欄にな

っているというところがございます。説明は以上でございます。

●委員長 はい、以上のとおりですけれども、皆さんの方から質問ございますか。

●副委員長 例えば一番最初に1.08とか1.28とか1.49というのは、満点は1.80。

●事務局 満点は3点でございます。

●副委員長 7ページなんか例えば、1.8とあるのですよ。

●事務局 参考資料のこちらに、この3ページをお開きいただきますと、資料の3ページです。説明がまずくて大変申し訳ございません。一番上に四角い点線で囲ってある部分がございますが、ここに十分満たされているというのが3点です。地域コミュニティの振興について十分満たされているという方は3点を付けます。そうすると、それが3点になりますということで、十分満たされているという3点の方が10人いらっしゃると平均点は3点、つまりこれが一番満点になります。そしてまあまあ満たされている等、いろいろと平均いたしまして1.08とか1.20とかそういう数値になります。

●副委員長 そうすると33点ということですか、100点満点だと。

●事務局 そうですね。

●副委員長 1.0だとしますよね、普通に。推移は見えるのですけれども、絶対値としての。

●事務局 一番高いのは3点なのです。それが3点だと、全部の項目について皆さんが十分満たされていると全員が考えている。100%だと。

●委員長 副委員長がおっしゃっているのは、普通は100点満点だとか、5点満点になぞらえて考えると1.8で高いとか低いとかを、パッと考えるとわかりづらいということです。

●副委員長 まあ推移はわかりますよね、これは。幸いというか。

●委員長 これは単純に集計というか、点数のやり方を変えれば可能ですよね。

●事務局 別な数値に置き換えれば可能です。

●委員長 置き換えれば可能ですよね。もしかしたら点数はやはり、標準が3点。設問の仕方が普通というのが無いから置きづらいのだよね。普通は3点というのであれば、5、4、

3、2、1でいいと思うのだけれども。普通が無いから、逆に言うと差は出やすくなっているかもしれないけれど。

●委員長 データとかその数値の見方が少しずれてしまう。

●副委員長 3、2、1というのは、これは行政評価の場合常識的なものですか。

●委員長 行政としては平均点が低く出るのですよね、これね。印象としては、今副委員長が言われたとおりで。

●事務局 付ける方のことを考えて、付けやすさというのを重視したような。

●副委員長 我々の人事評価でも、5点満点の評価です。それでは、これは八戸市独自の評価点だというふうに理解していいのですね。

●委員長 場合によっては集計した中で、この点数の割り振りさえ変えれば点数は変わるので、それこそ市民から見てわかりづらいというのがあれば、少し何か点数表記を変えることはあるかもしれないね。

●副委員長 要するに、実施済とか何かだというのは85点だとしますよね。これで満足度が30点だと合わなすぎますね。だから実施済だって、アンケートを重視すると委員長がおっしゃっているけれども、どのように重視して反映させるかというのは、少し悩むところですね。

●B委員 やはりそういうことは出てくるでしょうね。

●副委員長 出てきますよね、これね。

●B委員 やはり中身をよく見てみないと、やはり何とかを設置済という形で実施済だということにはなっているけれども、実際にはそれをPDCAのサイクルがうまく回っていないということになると、アンケートの方としては何もやっていないのではないかということになる。項目によって出てくるということはあるのだろうと思いますね。

●A委員 こういうふうな表になっていたときに、数字で換算しないで、進捗率とか、仮定で21年度が一番長い線になって、成果が表れているという形を受け止めた方がわかりやすい。

●副委員長 トレンドで見るとね。

● **A 委員** そういふことですよ。数字ではなくて、進捗状況で。19年度より21年度の方の棒グラフが前に出ていれば。

● **委員長** 満足度は一応改善の傾向にあるというふうには、ここに出ているということですよ、全体的にはですね。ただ、ものによってはそうになっていないものもあるし、そこはそれを見る限りこの三つは出ているわけなのですから。

● **副委員長** そういふふうに解釈しましょう。しょうがない。

● **委員長** はい、どうぞ。

● **B 委員** 今までのことで確認したいのですけれども、例えば2ページのここに組織内部の見直しというのがありますね。これで2-1の(1)と書いてあるのは、これは何の意味ですか。

● **事務局** これはですね、総合計画です。

● **B 委員** だからこっちのマニフェストの、この番号とは全く関係の無い番号ですか。

● **事務局** それは全く別です。

● **B 委員** やはりそういうことなのですね。それで、例えば今2-1の(1)というのが、6ページでいえば、産業間連携の推進というのも2-1の(1)という同じ番号になっているのですけれども、これは何か意味があるのですか。

● **事務局** これも実は総合計画上の分類のやつであります。

● **B 委員** これは分類のやつで、これは同じ分類に入っているわけですね。

● **事務局** そうです。

● **B 委員** そうすると、これはいわゆるマニフェストの実施項目とは全く関係なく別物だということですか。

● **事務局** 総合計画の項目として、それを置き換えているということですね。

● **B 委員** そうすると、総合計画のやつとこのマニフェストというのは、また別の形で動い

ているものなのですか。別の形というとおかしいのですけれども。我々例えば評価するといった場合に、その関連はどう見ればいいのかということです。よく見れば関連付けられるのだろうというふうに思うのだけれども。

●副委員長 それでまた別な集計をやるときに、これを使うのではないですかね。そういう意味では関連付けられる分析であるということでしょうね。

●委員長 ここの総合計画は前市長のときから同じ、もう新市長になってから作っている。

●副委員長 前市長から進めていたのです。

●委員長 そうですか。

●副委員長 それで変わらして、それで新市長がこのマニフェストをその中に取り込んでくれるように言って、それで取り組んだのが第一。

●委員長 なるほど、なるほど。

●副委員長 それでいろんなことをやって、だから関連付けがあるのですよ。

●B委員 そうすると、元々その総合計画があって。

●副委員長 いや、作り始めたのですよ。

●事務局 総合計画の方を先に作り始めて、途中でマニフェストというのが別に考えられると。だから総合計画の方にも、できるだけマニフェストの内容も取りこむようにしたのです。

●B委員 前市長から引き継いだ総合計画の中に。

●事務局 作る途中だったものですから。

●委員 なるほど、そういう中で。理解しました。

●委員長 次の課題としては、それこそ今度は現職になっているので、次にマニフェストを作るときには総合計画にもっと近づけるとか、逆に今度マニフェストを作って、実施計画を見直すときに逆にマニフェストにこの実施計画を近づけるとか、やはりできればこの二つを関連付けるだけではなくて、もっと一体化させた方がいいかもしれませんね。それは次の、それこそこれからの課題でしょうね。

● **B委員** あと一つ。この参考資料というのは非常によくできていると思っているのですが、やはり中身の分析をもう少しする必要はあるのかなと。

● **委員長** 参考資料というか、このアンケートね。

● **B委員** はい、アンケートで。例えばこの細かい数字を書いている方で見ると、来訪者・観光客の招致と御もてなしサービスの推進と、これが全体の流れとしては点数で見ても上がっている、年度年度上がっているわけですけども、例えば平均値を上げている項目と、平均値を下げている項目、これが非常にポイントだから、例えばこの中でいえば絶対値として高いというのは2-2-2、受入体制の充実というのが1.58ということで、全体が例えば21年度1.22であれば、随分これとか2-1-4、ブランド育成とかというのが上げている項目と、そうでない項目があるということと、それから絶対値そのものが高いというものと、やはり低いというものとか。それから前年対比ですとこう年度年度上がっていったものとか、この中身をやはりもう少し細かく見るということは、上がっているから全体的にはそれでいいだろうというだけの評価にはならないのかなと。それはやっている方と受け取る方の、やはりさっき委員長も言われたけれども、差というのが出てくるところというのは、そういうところを分析してみる必要はあるのかなということはこのを見て感じたところです。

● **委員長** 今、1項目は副委員長とか、B委員からも指摘された2点を上げると、いずれも重要なことだと思うのですよね。まず、B委員の方から紹介しますけれども、幸いにしてこれ各総合計画の体系図と、それから今回のマニフェストがずれていますので、ずれている分、分析はよりしやすい形になっているわけですね。その分析部分については、今回これから確認に入りますが、今日満足度や指標を確認した後で、それを総括して、その中身を分析していくという作業を次回までやっていくことになると思うのですが、その中で今言った満足度の中で、内訳を詳しく見て分析するにも、この委員会としては単にこうなっているということよりも、その理由ですね。何でこうなっているのかというところが重要なので、そこに力点を置いて総括をしていただくということを是非やりたいと思います。

それから副委員長が指摘されたように、私も一応原案を見たときにはこの1.8とかでいいと最初は思ったのですが、しかし言われてみると確かに僕も大分慣れてきて、1.8が高いとか低いとかいうのは大分慣れましたけれども、最初に言われて1.8が高いか低いかわかりづらいた。表示の仕方として、やはり工夫をして、次回まで工夫の課題で、例えば十分満たされているとまあまあ満たされているを二つ足して、そのパーセンテージで、要するにまあまあ満足しているが何パーセントという表示にすると。

併せて市にとって重要なことは、この分からないという人が何パーセントいるかということも重要なのですよね。分からない人が何パーセントいて、それで何パーセントの人が十分満たされている、ないしはまあまあ満たされているという形にすると、まあパーセンテージの表示は実施率なんかと似ている形にはなると思うのです。ただし、先ほど議論になりました

たが、普通が無いので、普通に比べて低い数字になっているのですよ。これは要するに普通という大体多いのが無くて、まあまあ満たされているか、あまり満たされていないかどちらかしかないので、普通の市に比べるとあまり満たされていない割合が高くなるのでしょね。だからその分は挑戦的で、微笑ましいところはあるのですけれども、逆にその必要以上にきつくなるかもしれないと。そこの表記の仕方は次回までの宿題で、しかし市民がどう思っているかということは非常に重要な視点なので、その表記の仕方については再度、調査はもう変えられませんので、ご検討いただくということでどうでしょうか。

●副委員長 いいのではないですかね。

●委員長 それでは満足度調査に関する点につきましては、以上のとおりでよろしいでしょうか。

一応ここまでは報告案件なのですが、一応これも審議事項のような感じになりましたが、それでは今日のメインの案件に入りたいと思います。

3. 審議案件

●委員長 今日は評価方法を決めるということで、既に質疑応答の中でも皆さんの方からご意見いただいておりますが、一応事務局の方と相談しまして、まとめた審議方法であります審議案件1 評価方法（案）について、それから審議案件2 今後のスケジュールについて、審議案件3 マニフェストの検証について、これら三つはいずれも関連がありますので、一括して事務局の方から説明をお願いしたいと思います。

はい、よろしくお願いします。

●事務局 それではまず最初に、会議資料というこちらの資料でご説明させていただきと思います。1 ページでございます。評価方法（案）についてということでご説明をさせていただきたいと思います。

まず1 番でございます。評価の基本的な考え方ということでございまして、まず一つは、マニフェストは八戸を元気にする、八戸に安心を確立するための処方せんとして、4 年間の目標をまとめたものでございまして、マニフェストの評価にあたっては市民の判断材料の一つとして活用されるよう、市民の視点に立ち、わかりやすく示すことを基本に、マニフェストの達成状況について、できる限り客観的な情報やデータを用いるものとする。

二つ目は、また評価対象であるマニフェストである92の公約事業及び12の数値目標は、極めて多岐にわたっているということで、マニフェストの上位分類である3つの公約及び24のマニフェスト項目毎に総括して評価をするものとする。

そして2 番の評価方法でございます。四角の囲みでございまして、マニフェストの3つの公約及び24のマニフェスト項目毎に、公約事業に対応する実施事業の進捗状況等を確認す

るとともに、その成果等に関連する指標を評価委員会独自に設定した上で、原則平成17年度を基準に、その後4年間における公約事業の実施状況及び関連指標の推移を検証し、マニフェストの達成状況について総括をするということでございます。

次に、三つ目の評価の流れでございまして、まずステップ1でございまして、ステップ1として、評価の前提となる基礎資料の確認でございまして、これは4月24日の第1回委員会にて171の実施事業の進捗状況区分について確認をいただいております。

そしてステップ2といたしまして、評価方法の決定、マニフェストの検証でございまして、本日の第2回委員会での内容となりますが、まず先ほどご確認いただきましたが、資料3の質疑応答集によって実施事業の進捗状況、各種基礎資料への質問意見を確認する。そして二つ目が、満足度アンケート調査によりまして3つの公約及び24のマニフェスト項目に対応する市民満足度の状況を確認する。

そして次に資料5、これから今ご説明いたしますが、マニフェスト項目体系表及び資料6 マニフェスト評価書（評価作業用）を参考に評価方法や全体のスケジュールについて協議・決定をしていただく。

そしてさらにマニフェストの3つの公約及び24のマニフェスト項目毎に、当委員会において関連指標を二つから四つ程度設定することといたしまして、資料5、6によって公約事業の実施状況の記載内容及び関連指標等について確認・協議をするということで、本日の流れといたしましては、このような流れを想定しております。

2ページにまいりまして、一番上に関連指標、先ほど説明した関連指標についてですけれども、この三つの指標で構成をしております。一つはマニフェストに掲載されている数値目標でございまして、二つ目は設定指標といたしまして、マニフェストの達成状況の評価するために委員会が独自に設定した指標でございまして、そして三つ目は、満足度アンケート調査の結果ということで、この三つを関連指標として位置付けをしております。

ちょっとイメージが湧かないかと思っておりますので、ここで少し資料が飛んでしまいますが、資料6のマニフェスト評価書（評価作業用）という資料となっておりますが、こちらの1枚をお開きいただきまして、目次もございまして、先ほど委員長の方からもお話がありましたが、この目次の部分、構成の1番が活力の創出、2番が安心の確立、3番が行革と参画と三つの柱からなっております、各々八つの24の項目に分類してございまして、この資料は、この項目毎に分類をしているというところでもございまして、具体的にご説明をさせていただきたいと思っております。

3ページをお開きください。まず、先ほど24の項目毎に構成をしているという説明をさせていただきます。まず、この3ページの部分が1-①来訪者・観光客の招致と御もてなしサービスの推進の項目でございまして、この資料が24毎に整理をしているというところでもあります。この資料につきましては、評価をしていただくための資料ということでございまして、まず、その構成でございまして、下にマニフェストの本文がございまして、このマニフェストの本文が、この項目に対応した文章を原文のまま掲載しているということで、非常にいろいろ多岐にわたった資料になっておりますので、できればこの一覧でご覧になれるようにということで用いたものでございまして。

そして次が、公約事業の取組状況ということでございまして、1番の貴重な観光資源を最大限に活用・整備、三社大祭のとき、種差海岸芝生地等々そういった表現がございまして、これが92の公約事業でございまして、その下にさらにこれを公約の実現のための事業といたしまして、事業を分類していると。そして、この事業につきましては、①に事業内容ということで、これも一覧で見えるようにしてございます。それから②が実施状況、今までの実施してきた状況。それから③が今後の予定ということでございまして、それからまた先ほども議論していただきましたその進捗状況、実施済みですとか事業区分新規ですとか、そういったものをこちらに記載してございます。このように、これに関連する事業等ができるだけ一目で見られるようにということで掲載したものでございまして、この公約事業の取り組みにつきましては、8ページをお開きください。8ページにまいりますと、取組状況といたしまして着手率でございまして。これは前回の会議でもご説明させていただきましたが、着手率、つまり実施済み、実施中、実施予定、検討中の全事業に対する割合ということでございまして。未定以外は全て着手したことになるとということでございまして、こちらは100%。そして実施率でございまして、こちらは全事業における実施済み、実施中の事業数ということで、こちらの項目に関しては95.2%になっておるというところでございます。そして9ページにまいります。9ページはさらに、関連指標という形で、まず①のところにつきましては、八戸市の来訪者数が年間約450万人ですと。4年間で来訪者数を600万人台に乗せますというふうにございまして、これはマニフェストに掲載されている数値目標でございまして。そして、数値目標の下にさらに②県内主要駅の1日平均乗車人員というふうにございまして、こちらはこの来訪者・観光客の招致とおもてなしサービスの推進に関わる、関連した成果指標として、これ今事務局の方で設定させていただきますけれども、これ後ほど委員会の方で、皆さんでご議論をしていただきたいというふうに思っております。そういった関連指標を掲載してございます。それから次に③として、満足度アンケート調査結果ということで、先ほどの集計した結果を平成19年、平成20年、平成21年、その推移ということで掲載してございます。ということで、この今の公約事業の取組状況、関連指標等をご判断いただきまして、マニフェスト項目の評価をしていただくと、そういった資料となってございます。これが24項目全てあるというところでございます。

一応ここでまた資料お戻りいただきまして、資料5をご覧くださいと思います。資料5でございます。資料5は、3枚ものとなってございます。今の、このマニフェスト評価書の評価作業用を少し体系付けたものでございます。先ほどの左側でいきますと、1ページは活力の創出の中にマニフェスト項目を主といたしまして1から8までであると。そして公約事業数はその内8ございまして。そして公約事業の取組状況は先ほどご説明した着手率が100%で、実施率95.2%。そして数値目標は観光客の入込数、そして設定指標、これは委員会で設定していただく設定指標は、県内主要駅の1日平均乗車人員、そして満足度というふうにございまして、この三つを踏まえて総合的に評価をしていただくというのを示した図でございます。そしてさらには、この八つの項目の評価と、さらに活力の創出の中で総括的に設定されている市民所得という数値目標がございまして。その数値目標の評価を加えた形で、活力の創出というものを総合的に評価していただきましょと、そういったイメージのもの

となります。そしてこの向き、矢印でございますけれども、矢印はその数値目標なり設定指標が17年度に比べてどのように推移したかということを示したものであります。上向きは数値が増加している、横に関しては数値が同数値にある、下については数値が減少しているということを表現しています。それから満足度については、基本的には3年間の調査結果でございますので、平成19年度と比較して21年度がどうだったかという、上がっているか下がっているかといったものを示したものです。全体図はこの3枚ものでご覧になっていただくというところでございます。

そして大変恐れ入ります、また会議資料にお戻りいただきまして、会議資料の2ページでございます。少しイメージ化ができたかとは思いますが、今こういった流れで考えてございまして、次にステップ3といたしまして、評価結果の取りまとめ・決定ということですが、本日の会議の協議結果によりまして、マニフェストの達成状況を総括して、事務局におきましてその評価案というたたき台を、6月9日を目処に各委員の皆さまへ送付をしたいというふうに考えてございます。そして、6月16日ですが、第3回の委員会においてそのたたき台を、評価案を確認・協議していただきまして、委員会評価を決定していただきたいというふうに考えてございます。

それから次にステップ4にまいります。ここはパブリックコメントということですが、6月16日の第3回委員会におきまして決定をしていただいた結果を基にしてパブリックコメントを実施しまして、市民の皆さんから意見を取りまとめたいというふうに考えてございます。

そして次に今度は、ステップ5といたしまして、評価書の作成・提出・公表でございます。6月16日、7月3日が今後の予定でございます。7月3日に第4回委員会を開催させていただきます。そしてマニフェストの委員会の評価と、それから市民意見を評価書として取りまとめまして、最終確認をしていただきたいというふうに考えてございます。そしてさらに、その当日、4回委員会の終了後に委員長と副委員長によって評価書を市長へ提出していただきたいというふうに考えてございます。そしてその後、市のホームページ等によりまして、その評価書を市民へ公表させていただきたいというふうに考えてございます。

評価の流れ、図がございまして、これは先ほどの説明を図式化したものでございます。

それでは資料の7をご覧になっていただきます。先ほど資料の6評価作業用のお話をさせていただきましたが、この資料7のマニフェスト評価書につきましては、評価作業の資料を、評価案全体像がわかりやすいように、概要版的に整理し直したものでございます。具体的には1ページをお開きいただきたいのですが、評価作業用では3本の公約の柱毎にページがばらばらに総括評価の欄がございました。この資料では総括評価として、全体像が見やすいように1ページのここにまとめています。

それから8ページから9ページをお開きいただきたいと思います。8ページ、9ページは八戸ブランドの育成とトップセールスの展開を掲載したところなのですが、この公約事業の取組の状況、それから各種実施事業の具体的な事業内容を削除いたしまして、事業名のみを記載して、この項目が全体に見やすいように、それからまたイメージが把握しやすいような整理にしております。6月9日に先ほどご説明しました、6月9日に送付を予定してい

る、事務局としてのたたき台としての評価案は、この形でお送りをさせていただきたいというふうに考えてございます。

●副委員長 もう少し説明をしてください。事務局案、これが肝心なところですから。委員会が独自に設定したものか、数値目標とはまた違う。

●事務局 さっきの評価書を、評価作業用のやつを簡略化したものというか、概要版としたものでございまして、結構評価の内容も全体像を見るためには、非常に見難くなっております、評価作業用が。ですから、評価をして、次の6月16日の会議の前に、6月9日には、今日の会議でいろいろと決まった内容を踏まえまして、事務局の方で個々に評価の原案といえますか、たたき台と申しますか、それをこれに記してお送りさせていただきたいというところでございます。

会議資料等を含めまして、説明は以上でございます。

●副委員長 質問はよろしいでしょうか。

●委員長 はい、お願いします。

●副委員長 会議資料の2ページ目の3行ほどを囲んでありますが、その中で数値目標、それから満足度アンケート、それから設定指標というのがありますけれども、これを今日決めるということですか。これを今日決めるということは、この資料5の評価の基準を今日決めるということですか。関連指標の設定、設定指標というやつは何ですかという質問なのですが。

●委員長 今回元々この指標を評価するにあたって、前から着手率と実施率はあったわけです。ただ着手率と実施率だけだと、まあ行政がやったことはわかったと、しかしやったことは本当に成果があったかどうか、それをもう少し客観的に把握しろというのがこの委員会の課題であったわけです。その成果を評価するときに、元々数値目標があるものに関してはその数値目標が的確であれ、適当でなかったにしろ、やはり公約ですから、それについて評価しよう。これはいいですね。それからもう一つ先ほど言ったように、公約とは別にともかく市民が、これに対して満足度が上がっているか上がっていないかということを一方向で評価しよう。問題はしかし、この数値目標が無いところが多いのですよ。それから一応満足度調査はあると、しかし本当のところは先ほどのように実態経済がどう変わり、成果で少しでも計れるものに関しては、その成果をやはりこちらの委員会の方で客観的と思われるものを定めて、それに基づいて成果を見たいというのがこの意図なのです。実はこれから見ていただくとわかりますが、あえて関連とどまっているのは、やはり関連指標であって、完全な成果を100%見る資料としては、必ずしも限らないものもあるのです。だからその動向を見ると、一応実施している施策の動きはわかるけれども、単純にそれをいわゆる数値目標だ

とか、成果指標と置き換えられるほど成熟していないものもありますので、とりあえずは関連指標という形で括ってあるのですけれども、本当の意図としては数値目標を補強して、大体この指標を見れば客観的にやった事業、実施した事業が経済実態や市民実態に対してどのような影響を与えているかを見られるのではないかとということをお試しで提示して。しかし、これは中身いろいろですので、今日皆さんにご意見をいただいて、今日資料をお出ししますので、後で見えていっているいろいろ気が付くところがあるかもしれませんので、多分少し5月一杯くらいまでは皆さんの方に見ていただいて、この指標はやはり入るべきではないだとか、こっちの指標を採用するべきではないかとかいうご提言をいただいて、その後6月9日に向けて、それら指標を総括する形で評価文を書く。評価文を書くにあたっては、先ほどB委員も言われたように、単になっている、なっていないではなくて、何でこうなっているかという理由をしっかりと分析して書いてもらうというイメージなのですが。

●副委員長 おっしゃるとおりなのですが、この客観的な指標でできるだけ評価したいわけですよ。でも本当に客観的な指標って何だというのが、皆悩むところだと思うんですよ。それで、そこからいくと数値目標が、この資料等であまりにも前面に出過ぎている。これ参考資料だといいながら、どんと真ん中に出ている。参考資料でね、ずっと横一列にあるのが問題ですね。いいもの、ふさわしいものがあるわけですよ。数値目標がどうのこうなので、市長の報道を相当程度左右してしまう、評価を。これが正しいのかどうか。市長が言ったのは、言ってみれば意気込み宣誓みたいな感じがあって、しかしそのためにいろんなこういうことをやります、こういうことをやります、こういうことをやりますと。これが立派なことであって、それを評価するべきではないかというふうな考え方もあるのではないかなと思うのですが。数値目標、関連指標というのがどーんとこの真ん中に持ってくると、少し評価というところで苦しくなりはしないかと。またその逆にいって、これは皆さん言っているように客観情勢の変化によってできないものもありますよね。一番端的に言えば、5%の所得のアップ。これは大統領ではないのだから、それは言えるはずが無い。無くても言った。言ったけれども、それは市民感覚からいったら、そうありたいと思っているわけですよ、皆。だから支持されたわけですよ。でもね、それを約束してくれたとは誰も思っていない。でも、そういうふうに向けて、市長がリーダーシップをどれだけ発揮したか。実行力をどれだけ発揮したか、そちらの方を評価する方がより客観的かもしれないという見方もありますね。その辺を皆で賛否両論してみたらどうかなと。最終的にここに落ち着くかもしれません。だけど、客観的な評価というのは何かといったら非常に難しい。

●B委員 私も、これは似たようなことと、確認なのですけれども。ここでまず議論するのは、設定指標をどう決めるかという話の一つですね。例えば、この資料6の9ページで見ると、関連指標の①というのは、もう既に数値目標として決まっているのですか。

●委員長 そうです。これは小林市長の方で。

● **B委員** ②というのは、一応事務局としては、県内主要駅の1日乗降者数を上げますよという設定目標。

● **委員長** そうです、目標というか関連指標ですね。

● **B委員** 関連指標として、これは事務局の案ですと。

● **委員長** そうです、そのとおりです。

● **B委員** 満足度結果を、これはこれで。

● **委員長** これは強制です。

● **委員** そうすると②のところを、これでいいのかどうかという議論だということですよ。例えば、そうなるとこれの50ページで、医療の充実2-1というところなのですが、これで①で市内産科・小児科数と書いてありますが、よろしいでしょうか。これは①ということは、数値目標だという意味ではないのですか。ではなくて、こっちを見たら設定目標だというふうになっているのですが。こっちは②だと。これは①ではなくて。

● **事務局** この関連指標の中の①という部分をいってしまっているものですから。

● **B委員** 関連指標の中の②だということですね。わかりました。

● **事務局** 数値目標の場合は、点線で囲って数値目標と書いておりますが。

● **B委員** 私もそこを確認した中で、今副委員長もおっしゃられたような意味で、こういう数値だけでいいのかということと、別に定性的な部分で、極端なことを言えば○、△、×くらいでもいいのだと、定性的な項目で。そういうものを設定指標にした方が、何かいい項目もあるのではないのかなというふうには感じます。

● **委員長** 幾つか分けてお答えをというか、現時点での考えをご説明します。一つは、数値目標とこちらで設定する関連指標の一番の違いは、数値目標はマニフェストの中でここまでやるべきだという水準が示されているのです。これに対して関連指標は、あくまでも傾向になっていて、それが全国と比べてどうだとか、他の市に比べてどうかという傾向を見るのにとどまっているので、評価の重みはおのずと違う形になってくるというのが1点です。

それから2点目、これは副委員長がご懸念されていたところとみな同じなのですが、基本的には私どもの作業としては、数値目標にとらわれず、状況について定性的に分析していくというのをベースに考えているのです。それが、作業用と書いてありますけれども、この作

業用というのが実際いわゆる本編、本論なのです。ですから、数値目標を設定して、しかも関連指標の動きは必ず入って、その関連指標がどうしてこうなっているのかということ。これは良くなっているものについても、悪くなっているものについてもその原因については定性的にしっかり分析して書くというのが、この主たる目標なのです。

今回一応公開用で、これというのは出していなくて、これでいいと最後のときはそれでやりたいのですが、何か分厚くなって、これをバーツと見たときに、本当に見てくれるのかというのがあって、せめてこのぐらいは見て欲しいということでこの資料7。しかしこの資料7も、本当に見てくれるかということで出てきたのがこの資料5になっているのです。このところで印象が大きいのが、例えば矢印とかですよね。この資料5のような形で出すかどうかは、皆さんと次回大体成果の動向が出ますので、出たときに改めてこの総括の仕方を皆さんと協議をして決めたいと思います。これはわかりやすいかもしれませんが、しかし誤解も生むかもしれないと、トレンドが伸びているだとか伸びていないとか。それから、結局先ほどの話にもありましたが、着手率、実施率と満足度については、何らかの数字は出るのですけれども、この問題は関連指標のところの総括をどういう形でするか。定性的な分析を何らかの形で示さないと理解できないので、これが定性的な分析の趣旨を活かしながら、市民にはある程度メッセージ性がある、しかし現実を歪めて伝えないという形では、最終的には着手率や実施率やこの数値目標ないしは関連指標の組み合わせで表現するしかないと思うのですが、それをABCか、それとも全体の達成率で表現するか、それについては全体の個別評価が確定して、確定した後でその実態を歪めないような形で皆さんと協議をして決めたいというふうに思うのですが、いかがでしょうか。

● **A 委員** 結構私、質問のところでいっぱい出させていただいたので、ある程度少し理解できているのですけれども、やはりこの関連指標のところの設定項目次第で変わってくる部分というのがすごく大きいのではないかなという部分があるのですね。ですから、私たちが知りたい関連指標を、どの程度事務局側で出してくださるのかという部分。

● **委員長** そうですね、それが今日のメインで、とりあえず今日、今案を出してもらって、皆さんの方である数字、これがあると具体的に指摘してもらうのが一番いいのですが、そこまでいなくても、もう少しこんな数字はないのかということまで含めて出していただいて、できれば5月一杯ぐらいまでその指標の可能性を提示していただいて、その後大体、その後の総括は、結局事務局にある程度原案書いてもらうということは、事務局が勝手に書き物するのではなくて、その指標に基づいて、その指標の理由を分析することで限定して書いてもらえることになりますので、そこが可能になるようなものを5月一杯ぐらいまでに、今日のたたき台も含めてとりあえず出していただくと。

● **A 委員** 私たちの方から。

● **委員長** そうですね。特に足さなければならないものと、削った方がいいものを出してい

ただきたい。文章とうかについては、次回確定しますので、ただ基本的な数字があるかないかは、今日1回議論して、それから後持ち帰っていただいて5月一杯くらいまでに検討していただいて、場合によってはどんな指標がいいかというのは、事務局と少し相談しながらやってみたいというのであれば、事務局の方に出張していただいて、こういう指標があるのかどうだろうかということを含めて、万全を期したいというふうに思うのですが。それはA委員が言われるとおり、この指標を何にするかで大体総括が決まりますので、公平で大体多々分野別に相場で通常使う数字というのがありますので、それを踏まえながらも、変化をよく読みやすいものとなるべく挙げていただくということになるのではないかと思います。

●副委員長 すいません、むしろ質問ですけれども、数値目標にとらわれなくて、定性的に評価しましょうと。この定性的にの意味ですよ。我々ここに長らく居るではないですか。そうするとマニフェストに関連して、市長のいろんないいところ、あるいは批判のあるところ、それから今後もうまくいくだろうかという期待感と、いろいろ聞こえてくるわけですよ。新聞報道何かにもいろいろある。それから、また浜であれば浜の方から直接聞こえてくる。そういうふうなものが、我々はある程度定性的な、ある意味では客観的な市民感覚の声としてとらえたいわけですね。とらえないと全然このものと乖離したものになる。例えば委員長がここにいない、またそういうふうな方の評価も重要ではないかと思っているわけです、何となくね。しかし、そういうふうないろんな見方が入って、基準が入って、もう作ればいいのではないかなと私は思っているわけです。その方が、それで定性的な分析に入りますかね。

いろんなね、我々この聞こえてきますよね。

●委員長 本来ならば、例えば市全体として総括しますので、市の意見というのもある程度客観的に集めなければならぬわけですよ、公平に。それで今回は一応それを、市民満足度調査を使って、そこは必ずそこで力点を置いて見るという形になると思います。

それから、個別に幾つかの指標を見ますので、一方で八戸市の中で思われている、意識されている指標が全国に比べて、それから青森県内他の主要2市ですよ。ないしは全国の中の同じ特例市クラスと比べてどうなるかということに位置付けながら、客観的に今の状況を見て、そのデコボコのところを実状に合わせて分析をするという形で、定性分析するという形にならざるを得ないと思うのです。その総括の仕方、現状に対する解釈になりますけれども、その解釈によって事実の範囲で地元の事情をうまく汲み上げて提示はするという形にならざるを得ないと思うのですよね、そのところは。やはり私も自分で考え思うところもありますけれども、自分の思っているところ、聞いているところが国民の声だと。常に思うこともありますけれども、特定の意見かもしれません。今回は、特に公平中立ということで、いわばどちらかという八戸を代表する各界の人に集まって来ていただいているので、代表していますけれども典型的ではないかもしれませんよね。もうそれぞれのリーダーみたいな人に来てもらっていますので、だからその私たちがここで思ったことが全て八戸市民共通の思いではない可能性もありますので、あくまでも満足度調査と指標の中でデコボコは位

置付けて、そのデコボコの解釈につきましては、私たちでなるべく定性的にしっかり解釈をして提唱をしていこうということで、客観性を担保すると同時に地元の意思も反映するということを考えたいと思うのですが。

●副委員長 そうですね、やはり両方でしょうね。

どうぞ、副委員長としてD委員さん。今までの議論、やはり職業上で。

●委員長 いかがですか。

●D委員 今議論になっていることの方向性で、私はいいと思います。

●委員長 C委員は。

●C委員 私もそう思います。市民のアンケートも入るわけですから、ここだけの意向ではないということであれば。

●副委員長 それで数値目標に必ずしもとらわれないというのであれば、このど真ん中にドーンと置くことはないのではないというのが少しありますね。今はある程度上がっているからまだいいかもしれませんが、そうではなくても、そうではない逆境の中にあっても、よくやっぴらっしゃる市長はきちっと評価されるべき。それはこの数値目標など、あんまり全然出過ぎると問題かもしれないというような印象はありますね。

●委員長 ボリュームとしては事業実施の部分、何をやったかというのは、今までの事業と同じように丁寧につくってもらって、実施の状況は予算の調査も含めてかなり詳しく、資料としてはつくっております。しかし、ここの部分は今までもある程度やってきた部分で、今回をとおしても、そのどの程度成果が上がっているかということが新しい情報になりますので、つくりとしては事業実施、着手を踏まえてどうなっているかなのですが、関心としてはそちらの方かもしれませんね、結果的には。要するに、関心を持つ人、行動をしてくれる人は結果的にどこを見るか、注目を持つかということになりますので、せいぜいこの指標、この関連指標を端にするとか、そういうことはできると思うのですが、情報提供で新しい部分に注目されるというのは、やはりここになるなど。しかし、ここで関連指標もなければ、どの方向でどう努力しているかもわかりません。今回大きな目標としては、私はこれを通じて市長が頑張ったかどうかということもさることながら、今八戸市を巡る経済状況、社会状況がどうなっているのかということを広く認識してもらって、それを基に今後どういう方向に持っていくかという政策論議を高めていただきたいと。そのためにはある程度関連指標、数値目標ではないですけども、関連指標という形で皆さんが一番気になっている指標で、この指標は定性的にしっかり分析しますけれども、市が責任を持っているものよりも国全体ですとか、それから民間企業の頑張りですとか、こちらに影響を受けるものの方が多いわけ

ですけれども、しかし、それも含めてどう動いていて、その中で市としてはここまでやりましたということは、やはり正確に情報発信していくということが必要かなというふうに思います。

● **A 委員** 私はこの数値目標というのは、ある程度私たちは頭にきちんとはめ込んで判断材料にするべきではないかなとおもうのです。やはり市民が考えたときに、この数値目標あつての今の市長の現状みたいに、関心の度合いがそうになっていくと思うので、あくまでもこの数値目標は基本材料として動くべきではないかなと。それで副委員長が先ほどおっしゃったように、実状が今こうなので、数値目標にはあまり至らなかったけれども、市長の頑張りを私たちはそこから判断するみたいな扱いの仕方でいいのですよね。

● **D 委員** ということは、数的に達成できなかったけれども、プロセス評価をするということですか。

● **副委員長** はい。

● **D 委員** ということですよ。

● **D 委員** プロセスを、どういう取り組みをしていて、けれどもこうなってしまったと。プロセスの方にも重点を置いていく。

● **副委員長** そういうことですよ。

● **A 委員** そうだと私たちも救われるというか。

● **副委員長** むしろそっちを正面にドーンと持ってきた方がいいのではないかとただで、否定するわけではないのですよね。

● **A 委員** 市民が見たときには、やはり数値目標があるから判断できるわけですよ。そうですよね。

● **B 委員** 私も今のA委員さんの意見と一緒に。そういう方向でいいのではないかなというふうに思います。

● **委員長** 今はいろいろ何だかんだいっても、ずっと厳しい厳しいと聞いていますけれども、それでもこれから4年に比べると、まあ良かった感じで、だからそのこれから4年に皆覚悟してもらうためにも、しっかり数値は、誤解を与えない範囲でどういう基礎資料になっているかというのは、やはり提供していくということで。

先ほどA委員が言われましてけれども、この設定指標が何で、どういうことか、まずこれが今日の後半の方の課題。それから、次回は設定指標の分析がこれで的確かどうかというような、次の重要な課題になりますので、それぞれ個別の指標の方を見ていくということによってよろしいでしょうか。

それでは、以上のとおりで事務局案どおり評価方法及び今後のスケジュールについて決定したいと思います。

続きまして、ただ今議論しましたとおり、関連指標をチェックすることになります。今日で、これ全て決めるということではありませんが、とりあえず24指標についてはご説明いただいて、今日いただける範囲でまず条件をいただいて、後日5月一杯なら5月一杯までにお気付きの点を寄せていただくという形で、作業を進めていきたいというふうに思います。実は、随分これもう時間を経過したのですが、これから後は比較的重要なことなので、24項目毎、1項目ごとに一つずつ区切って説明をさせていただいて、今日気が付く範囲でまずアイデアをいただきまして、その確認を進めて行くというのをさせていただきたいというふうに思います。説明の方は、なるべく短くお願いします。今日は特に皆さんの思い付いた範囲でいいですので、加えるべき指標、検討すべき指標等を挙げていただけたらというふうに思います。

それでは資料6の2ページです。1活力の創出は、いわば24のマニフェスト項目の外出しになっていますので、これは省略しまして、先ほど例示しておりました1-①来訪者・観光客の招致と御もてなしサービスの推進から始めていきたいと思います。事務局の方、説明をお願いします。

●事務局 それでは、お時間があまりないということで、手短にいききたいと思います。9ページをお開きいただきたいと思います。9ページは来訪者・観光客の招致と御もてなしサービスの推進の関連指標ということで掲載してございまして、1番は先ほども少しご説明させていただきましたが、数値目標でございまして、マニフェストに掲載されております。そしてここからは最新値でございまして、平成19年で573万人という数字がございまして、あと三角の印の折れ線グラフが弘前市になってございまして、それから丸は青森市でございまして、あと米印の折れ線グラフにつきましては類似団体の平均ということで掲載をしております。

それから②が、県内の主要駅の1日平均乗車人員ということでございまして、平成16年度八戸駅におきましては、1日あたり4,626人でございまして、平成19年は5,145人でございます。それからまた丸の折れ線グラフは青森駅でございまして、三角は弘前駅の状況ということでございます。

それでは、満足度のアンケート調査結果につきましては、平成19年は1.15、平成20年は1.30、平成21年は1.36ということでございます。説明は以上でございます。

●委員長 事務局の方から二つの関連指標、それから関連指標の中でどこの比較団体を出すかというの、比較的重要な観点ではありますが、どうでしょう、今日のところでお気付きの点がありますでしょうか。

●D委員 この類似団体というのは、どこどこが入っているの。

●事務局 類似団体は、八戸市と同じ特例市の中から、自治体ベンチマーク比ベジョーズという、各特例市が指標を出し合っているものがありまして、その内自治体によっては指標を入力していないところもありまして、その内全て数値が拾える17団体の特例市。例えば、東北でいえば山形とか、いろいろ特例市は30市あるのですけれども、どうしてのその数値がそろっているところという。

●委員長 全部読み上げたら。

特例市ですけれども、人口規模でいうと20万人以上30万人未満が多いです。あといかがですか。

●副委員長 今のが一番評価しやすいところだから、他に時間を取るのがもったいないから。

●委員長 おっしゃるとおり、数値目標もしっかり割りが出ていますので。では次に行きましょう。

●事務局 次は17ページをお開きください。次の17ページは、中心市街地の活性化・用途地域の見直しでございまして、関連指標でございまして。

①4年間で中心市街地の通行量を2割以上増加させますということで、これはマニフェストに掲載した数値目標でございまして。ちなみに、目標値は平成21年で20万人以上ということございまして、最新値は平成20年で102,289人でございまして。そして参考といたしまして、その下でございまして、中心市街地通行量の県内の3市比較を掲載してございまして。こちらは比較のため、1日あたりの通行量に換算したもので整備してございまして。ちなみに八戸の状況ですが、平成16年は1日あたり83,638人でございまして、平成20年は51,145人。そして丸は青森市、三角は弘前市の状況ということでございまして。

それから②が、小売業の年間商品販売額でございまして、八戸市で黒の折れ線グラフで申しますと、平成14年が3,163億円、平成19年は3,013億円となっております。三角は同じく弘前市、丸が青森市の状況でございまして。

それから③は中心市街地の居住人口でございまして、黒い星のマークのは八戸市でございまして、平成15年が4,845人でございまして、平成20年直近でございまして、4,553人になってございまして。三角が青森市、米印が弘前市の状況というところになってございまして。

次のページは満足度アンケート調査でございまして、平成19年は0.76、平成20年は0.89、平成21年は0.94といった状況でございまして。説明は以上でございまして。

●副委員長 それで、その評価を書くわけですよ、何行かで。

●委員長 はい、最終的には。

●副委員長 それを数値化するの。何点と評価するというのは、そこまでやってもらえるのですか。

●委員長 それは、まだ今日は全然。

●副委員長 5月中とか、次回まで。私は、文章で入ってくるだけですかという質問。あるいは何点と入るのか。

●委員長 それは先ほど申したように、ここに分析の文章、総括の文章が入るのは間違いありません。これをまず事実として確定させるのが優先、優先した後に、そのいわば成果、関連指標の総括をどういう形態で、今副委員長の言われたように、何か○、×、△とか、A、B、Cだとか点数で付けるのか、それについてはまだ白紙、本当に白紙です。これをどうやって総括するかは、皆さんと相談をして、わかりやすく、しかし誤解を与えないような形で提示するという事だけで、元々どうやって総括するかということとは。

●副委員長 あまり他にも例がないわけですか、多分。

●委員長 いえ、一番多いのは、税金を使わずに後援会でmanifestoの検証をして、関係者がどういうフィーリングで付けたかという、主観で判断するのはあります。ただ、今回うちでやろうとしているように、一応ちゃんと客観的に確定させて、その確定させたものの中で全体の、いわゆる成果指標相当のものをどうやって総括するかについては、今副委員長が言われたとおりあまり例が無いのです。だから、これから考えてやっていかなければいけないと思います。

●副委員長 次回、B委員がいらっしゃらないから、先走ってもあれなのですけれども、一応こういうふうには指標的にはあまり芳しくない例で、しかし頑張っているよと、市長も市役所もね。こういうふうな例で、大体書く文章は決まっていますよね。それでどうするのですかということがないと、僕が基準を決めたことにはならないのではないかなということですね。その辺はどうですかね。

●委員長 悪いものは悪いでしょうがないので、それはやはり包み隠さず伝えるのも一つの仕事なのですけれども、全体についてはわかりませんが。

●副委員長 やはり市民感覚としても、評価しているのだと思うのですよ。市長のこの数値目標に関わらず、いろんなことをやってくれている。むしろポジティブにとらえている人が大多数いる。ただし問題点もある。それは問題が無い場合は無いのですけれども、それをどう

いうふうに発信するか。それから将来への期待感をどういうふうに示すか。この3点くらい。やはり数値化は必要だし、するべきではないかなと思うのですけれどもね。

●委員長 今回は、それぞれ皆評価していると思いますので、この分析としては各項目毎に客観的事実としてこうなっていると。それから、客観的に理由が分析できる範囲では討議ということは出そうとは思いますが。その結果、市長の今回の働きが少なくともAとかBとかCだとか、そういう評価を現時点で踏み込むつもりは全くありません。それは、皆さんがこの評価書を読んで、どう思われるかということなので。

●副委員長 任せるというわけね。

●委員長 そうです。そこはしません。ただ、全体の成果指標の動向がどうなっているかと。例えば、着手率にしても実施率にしても一応総括があって、満足度調査もありますので、したがって成果の部分についても、多分このマニフェストの中で公約した数値目標の達成状況と、それから数値目標ではない関連指標の動向も含めて、ある程度の動向についてはわかりやすく提示する必要があると思うのです。ただし、言ったように、これがイコール市長のA、B、Cだとかということは多分踏み込む必要はなくて、むしろこのレポートを読んでいただいて、今の八戸市を巡る政治経済状況と、4年間市役所がやってきたことを皆さんそれぞれ考えてくださいということにとどまることで十二分ではないかというふうに思っています。ただ、先ほど言ったように、問題があるのは成果指標の総括の仕方はどうするかということは、個別の評価の確定と並んで、次回少し議論しなければならないというふうに思っております。

●A委員 この調査の表の数字、調査量、通行量を調べたのが日曜日と月曜日の2日間の合計と、これはどうしても中心街活性化という基本計画の策定の内容がそうになっているので仕方ないのでしょうかけれども、平日もっと出ている。意外と日曜日と月曜日というのは、八戸の中心街の人が少ないというのは、市民誰もがわかっていることなので、あえて平均の数値というのをここで出せないものですか。1日全部の通行量の平均みたいな。

●副委員長 大変だ。

●委員長 それは無いのではないですかね、多分。

●A委員 八戸には無いのですか。

●委員長 無いです。

●A委員 基本計画の策定するときには、やはり日曜日の通行量でいっていたので、多分八戸

はこれ、今すごい悪い結果が出ているのだと思うので、この平均化した数値があれば。

●D委員 これに関しては、日経にも全国の中心市街地活性化のランクがでた。何から出た、数字がですね。だからそれをこの委員会がどう評価していくかという、通行量だけを見ればですね。他の事業もありますので。だからそれで全てだめというわけでもないと思いますし、私は。

●委員長 それで、最後に副委員長に言われた1番ですね。今書くかどうかは、これからどうするかの部分ですね。そこは、 Manifestoの検証のはみ出る部分なのですよ。これに関して言うと、多分ここから読み取れることは、皆中心市街地活性化して欲しいと言っているけれども、この客動向から見ると、そう皆、本音ではやはり郊外店舗へ買いに行きたいという消費行動も一方でしているということなので、本音で言うと、こういう公約を今後も続けていくのかと。もう少し郊外店舗を快適にという方向で考えていくべきなのかも含めて、そこは大きな判断があるわけです。その部分、これからの部分については、多分この過去の理由分析から出てくる範囲のことは書けると思うのですが、しかし今後の政策を左右することについては、また別途市長さんはManifestoをおつくりになられるでしょうから、そちらの方にやはりお任せするのかなという気がしています。これからどうするかということについては、何と申しますか、書ける範囲が少し限定されるかなと。政策は見直しをしなければならぬのであれば、見直しをしなければならぬか、目標を変えるか政策を変えるかということをしなければならぬものは、しなければならぬと踏み込んで言えるのは言うてもいいのかもしれませんが、そこは次回までの個別評価の書きぶりで、皆さんがそれぞれの立場で見て、違和感の無い範囲で作文を作りたいというふうに思います。

●副委員長 いや本当にね、この作文ができた段階で、どうなるかですよ。そのときにはもうB委員さんいらっしゃいませんよね。

●B委員 作文を書くときの、一つの資料、道具というか、そのときにその数字は見るしかないんで、目安ですよ。

●D委員 目安ですよ。

●副委員長 数字は基本的に出ていますので、この事実は出ませんので、他のことをいろいろつくって、これを付け足すわけにはいきません。基本的には、ここに書いてあることを根拠に。

●副委員長 例えば、こうなっているけれどもよく頑張っているよと、こう書くとするでしょ、これは主観なのですよね、一定の評価なのですよね。これは難しい。

●**委員長** 頑張っているとは書けない、それはね。それは主観ですから、やはり。だけれども事業はやったということは書けます。事業は幾らやったと。しかし、頑張ったかどうかというのは主観なので、それはやはり今回の報告には馴染まないということですね。

●**D委員** それで、遅れて効果が出て、数値化されたものというのは、遅れて出てくるものですか。

●**委員長** むしろそっちの方が多いのです。

●**D委員** だから、それを統一するとなると、そこまでの取り組みをきちっとやっていく。だから、その内の効果的なものはここ1、2年後に表れてくるだろうというものは結構あるわけですね。だから、そこら辺の評価を、それではだめというわけではないし。

●**委員長** でも現実的には1、2年経つともっと数字が悪くなるかもしれない。だから、それは両方書かなければだめなのですけれどもね。だから、そこは皆公平に扱わなければだめなので、それは結構長くなっていくのですよ、だんだん。それを皆さんに次回読んでいただいて、皆さんが違和感の無い範囲で、なるべく具体的に分析するということです。

●**副委員長** アンケートというのは、期待感も入っているのですよね。今後どうなるかとか。それを我々は、あまり将来のことについて触れないとなると、何か味も素気もない分析みたいなことに終わらないようにするには、事務局は大変だなあと。

●**委員長** 数字以外のその部分は、基本的に委員会が書くことになりますので、それは皆の意見を踏まえてですが。ただ、基本的には検証ですから、これは、検証ですから。マニフェストが実際上何をこうやってきて、何ができたかと。その目標の無いものについて、一応関連なり指標を出して客観的に分析できますと。過去の振り返りから出てくる将来への洞察は出ていいと思うのですが、将来ああすべきだ、こうすべきだというのは、基本的に今回のマニフェストの。

●**副委員長** そこまでは行かないのですよね。それを含めた総合評点でないと、将来への期待感といいますか、期待感があるのか無いのか。全く無い市長の場合もあり得るわけですよね。まあ、よろしいでしょう。

●**委員長** 次に進んでいきましょう。

●**事務局** 先ほどの類似団体の、17団体の内訳なのですけれども、八戸市を含みまして、所沢市、越谷市、平塚市、厚木市、大和市、小田原市、茅ヶ崎市、甲府市、松本市、沼津市、富士市、一宮市、福井市、明石市、宝塚市、佐世保市の計17団体で、類似団体の平均値に

も八戸を含んでいる形になっています。

●**委員長** ですから、今言っている感じでいうと、割と特例団体の中でも、割と都市圏の財力があるところが多いということですよ。ちょっと高めの目標設定かもしれません。

●**事務局** それでは次に21ページをお開きください。③八戸ブランドの育成とトップセールスの展開の項目でございます。関連指標でございますが、①は4年間で40件以上の特産物を商標登録しますということで、これは数値目標、マニフェストと同じでございます。マニフェストに掲載されてございます。目標値は、平成18年度から累計で40件以上ということでございまして、最新値でございますが、現在33件という状況でございます。

それから次に、下に下がりまして②でございます。地域団体商標出願・登録件数でございます。市、県、全国と並べてございまして、出願件数、八戸市につきましては1件ですが、残念ながら。八戸せんべい汁を出願したのですが、残念ながら登録にならないという状況でございます。県におきましても9件ございましたが、登録件数はそのうち3件ということで、たっこにんにく、大間まぐろ、嶽きみと、この3件は登録されているという状況でございます。

それから次に③にまいりまして、物産展及び行催事開催の売上でございます。この平成17年につきましては4億2,957万円でございます。平成20年は3億6,049万円となっております。

次に④満足度アンケート調査結果につきましては、平成19年1.08、平成20年1.19、平成21年1.27という状況でございます。説明は以上です。

●**副委員長** どんどんいきませんか、大概問題が無さそうなので。

●**委員長** 気が付く点、いいのですか。

●**A委員** 関連指標の③の、物産協会決算書というのはやはり必要なのでしょうか。売上のところ。これ物産協会のみですよ。

●**委員** 物産協会というところの決算書ということですか。

●**A委員** ええ、出典ですよ。これって物産協会の必要なのでしょうか。やはり必要ですか、出典。

●**委員長** 出典は必要ですよ。

●**A委員** 出典ではなくて、この数値の提示は。

●委員長 事務局いかがですか。

●A委員 何で物産協会なのかなと。

●事務局 一応マニフェストの中に、トップセールスということで、販路を拡大するとか、そういったものをまず多角的に計る指標として、そういう物産協会が主催とか共催する、そういった郷土のブランド品をそこで売っているわけですので、その販売額というのがやはり必要かなということで提示しました。

●委員長 はい、次。

●事務局 続きまして25ページをお開きいただきたいと思います。こちらは企業誘致と新規産業の育成・雇用の創出というマニフェストでございます。右上に項目が出てございます。関連指標でございまして、①はかつて1万3,000の事業所を、1万2,000台に回復させますということで、これはマニフェストに掲載されている数値目標でございます。最新値は平成18年で、1万1,922事業所という状況でございます。丸は青森市、三角は弘前市でございます。

それから②は有効求人倍率を4年間で0.5近くまで回復させます。こちらもマニフェスト項目でございまして、黒の折れ線グラフが八戸でございまして、平成20年度は0.48でございます。そしてさらに直近でございますが、これは年度ではなくて月の平均ですが、21年の3月は0.38といった状況になっております。それから、丸は県、そして米印は全国の数値というところでございます。

そして次の26ページをお開きいただきたいと思います。③は県内3市の誘致企業数、こちらは累計でございます。3本棒グラフが立っておりますが、左側が八戸市でございまして、平成18年は48社でございましたが、平成20年は57社となっております。同じく真ん中が青森市、右側が弘前市といった状況でございます。

それから④は満足度アンケート調査結果ということで、平成19年0.66、平成20年0.81、平成21年0.71といった状況でございます。説明は以上でございます。

●委員長 お気付きの点、いかがでしょうか。では、よろしいですか。

それでは次をお願いします。

●事務局 それでは28ページをお開きいただきたいと思います。こちらは地場産業の強化と中小企業の安定化の関連指標でございまして、①は過去4年間で100社を超えた年間倒産件数を、まずは半減させますということで、これもマニフェストの数値目標でございます。目標値は平成21年度で12件以下ということでございますが、最新値は20年度で9件となっております。

次に②でございまして、これは八戸港コンテナ貨物取扱量でございまして、平成17年

20,132teuでございまして、平成20年度は22,806teuということでございます。

それから③は、八戸港貿易貨物取扱量でございまして、平成17年度に関しては769万トン、平成20年度は687万トンという状況でございます。

それから満足度のアンケート調査結果は、平成19年度1.37、平成20年度1.37、平成21年度1.33といった状況でございます。以上でございます。

●**委員長** はい、いかがでしょうか。

●**A委員** この実入りとは何ですか。②の貨物取扱量実入り。

●**事務局** コンテナ貨物を計るときに、行って戻ってくるのですけれども、空で帰ってくるものもあるのです。空でカウントするときと、中身が入っているものだけカウントする場合があります。

●**A委員** そういう意味なのですね。はい、ありがとうございます。

●**委員長** よろしいですか。はい、では次お願いします。

●**事務局** それでは33ページをお開き願います。ここは攻めの水産業、攻めの農業の確立の分野でございます。関連指標でございますが、①4年以内に水産加工品生産高を8万トン台に回復させます。これはマニフェストの数値目標でございます。最新値は平成19年で、8万458トンという状況でございます。

それから②八戸港の水揚げ高でございまして、棒グラフは数量を示してございます。平成17年は15万トンでございまして、平成20年は12.9万トンでございます。それから折れ線グラフの方に関しては、数値が金額でございまして、平成17年243億円でございまして、平成20年は233億円でございます。

続きまして③の農業産出額にまいります。棒グラフが全国の状況でございまして、四角が青森県、ひし形に関しては八戸市でございます。八戸市の状況をご説明しますと、平成16年が155億円でございまして、平成18年は149億円といった状況でございます。

続きまして34ページにきまして、満足度アンケート調査結果でございますが、平成19年0.79、平成20年0.92、平成21年1.01といった状況でございます。以上でございます。

●**委員長** はい、いかがでしょうか。それでは、とりあえず前にいきましょう。

●**事務局** それでは続きまして、39ページをご覧いただきたいと思えます。次は新たな時代に向けた人材の育成ということでございまして、真ん中下のところになりますが、関連指標でございます。①勉強は将来役に立つと思うと回答した児童生徒の割合と、児童生徒数を掲載してございまして、棒グラフが児童数、棒グラフの中の点々があるのが生徒数です。そ

れから折れ線グラフの三角が小学校6年生の状況、それから折れ線グラフの四角が中学3年生の状況といった状況でございます。

それから②にまいりまして、ALT人数と小中学校の訪問件数ということで、棒グラフはALTの人数でございます。9人で変わらずということでございます。それから棒グラフの方は、平成17年1,341件から、平成20年の1,397件になってございます。

そして次の40ページをお開きいただきたいと思います。③は子供、これは小学校6年生の体力、運動能力の平均、50メートル走でございます。市の男女、県の男女、国の男女を、さらに平成17、18、19、20を棒グラフで示したものがこちらのグラフでございます。

それから④にまいりまして、青少年・中高生の地域活動実績人数でございます、平成17年554人でございます、平成20年は1,244人でございます。

満足度のアンケート調査結果は、平成19年1.10、平成20年1.19、平成21年1.31といった状況でございます。以上でございます。

●**委員長** このあたりから段々、この産業系のところは比較的元々数値目標が入っていたのですけれども、それから関連指標が設定しやすくなっているのですが、人材育成とか、この後になると元々数値目標がないものが多くある。それから、関連指標の設定もやや厳しいところになってきまして、むしろこの辺から皆さんにいろいろとアイデアをいただきたいところなのですが。

●**A委員** 何か本当にちんけな質問なのですけれども、こういうふうな場合にマニフェスト本文を読んだ限りでは、何がメインなのかなという部分が、ちょっと表をひっくり返したり、広げたりして今見ていたのですけれども、そういうときに市長の方から、自分の中で最重力の視点はどれだみたいなことを聞くことは不可能でしょうか。

●**委員長** これは出てしまっているんで、この中でそこで市長の指示に従っていかないでしょうね。

●**A委員** 指示というか自分の力の入れ具合。

●**委員長** それはもう出されていますので、後で見ると文章も、僕はこれ比較的良くできたマニフェストだと思うのですが、中にはいろんなものが入っていたりしますので、だからこれ一応ちゃんと原文に忠実に、本文も引用しているのです。この中で解釈して、その中で設定するしか、それは致し方ないと思います。

●**A委員** 文章の中で、私たちが判断するしかない。

●**委員長** そうだと思います。とりあえず前に行きましょう。

●事務局 次に45ページをお開きいただきたいと思います。多文化都市の推進とスポーツの振興の関連指標でございます。①は八戸市公会堂入館者数でございます。平成17年は18万2,500人、平成20年度は17万3,400人でございます。

それから②は市体育施設の利用者数でございます。平成17年は112万8,000人、平成20年は126万2,000人でございます。

それから③は市内公民館の自主クラブ数でございます。平成17年は453、平成21年は428でございます。

そして④は満足度のアンケート調査結果でございます。平成19年1.11、平成20年1.17、平成21年1.18といった状況でございます。以上でございます。

●委員長 はい、いかがでしょうか。これより良い指標があればぜひ聞きたいのですけれど。非常に厳しいところなのですね。

●B委員 これは今、これで全部決めるという話ではないわけですか。

●委員長 一応、今ご説明いただいて、5月一杯までに。

●B委員 別の指標もあるのではないかとすることは、5月中にお話してもよろしいわけですか。

●委員長 そうです。もちろん、ペーパーの形でまとめていただいて出していただいてもいいですし、それからそこまで手間が掛かるのであれば、1度事務局の方に連絡していただければヒアリングに行きますので、ヒアリングの中でアイデアをいただこうと思います。

はい、それでは次に。

●事務局 それでは続きまして、50ページをお開きいただきたいと思います。50ページは医療の充実でございます。この関連指標といたしまして①です。市内の産科・小児科数でございます。平成17年病院総数は21件、一般診療所の総数が174、そして平成19年は病院総数が21、そして診療所総数が173となっております。平成17年、内訳が不明だということで数字が出ておりません。

それから②は市内の医師数でございます。平成17年は483人、平成19年は501人といった状況です。

そして満足度のアンケート調査結果でございますが、平成19年1.49、平成20年1.46、平成21年1.59となっております。以上でございます。

●委員長 はい、いかがでしょうか。

●D委員 医師数ですけれども、お医者さんにしても勤務医もあるし、開業医もあると思う

のですけれども、この辺の数字的なものは、データは出ているかと思うのですけれども。

●事務局 今、一応八戸市の統計書の中から医療従事者数ということで、分類名称医師、歯科医師とか、あとは看護師とかそういう中からの医師数の数値を拾ってしまして、多分勤務医とかそういったものをひっくるめた形の数値だとは思うのですけれども、まだそこまで深くは今把握していない状況なのですけれども。

●事務局 出ているはずですが、だからそこは調べて。

●D委員 区分があった方がよろしいと思うので。充実というのを、どういうふうにとらえるかということもあるので、医師数が増えたから充実したというのは、ちょっと直線的ではないのかなと、私は思うのです。

●B委員 一般的にはやはりそう思いますね。内訳があった方がいいという意味でも。今おっしゃられたような部分とか、それから産婦人科と耳鼻科と歯医者と何科とかという内訳があった方が、何かの判断がしやすいということはあるかもしれませんと思います。

●事務局 探してみます。

●A委員 八戸市の場合、産婦人科と産科の扱いというのは、これはどういうふうな設定になるのでしょうか。

●事務局 基本的に産科とか産婦人科とか内科とか小児科というのは、医師の方でそのように医師免許を持っていれば自由に標榜できるといいますか、そういう中で産科という診療科目を標榜している診療所、病院です。一応括弧書きで分娩可能なところですね。

●委員長 はい、医療のところはもう少し指標を考えてみたいと思います。
それでは次をお願いします。

●事務局 次は53ページをご覧いただきたいと思います。市民健康維持連携システムの創設でございまして、この関連指標でございまして、①は基本健康診査・健診等受診率でございまして、棒グラフは基本健康診査、そして四角の折れ線グラフは胃がん、三角は肺がん、バツは大腸がんの状況ということでございまして。

それから②は人口1千人当たり三大死因による死亡者数でございまして、平成17年は八戸市では4.7人、平成19年は4.8人でございまして。そして三角は類似8団体の平均でございまして。

満足度のアンケート調査につきましては、平成19年1.36、平成20年1.42、平成21年1.51でございまして。以上でございまして。

●委員長 はい、いかがでしょうか。とりあえず次に行きましようか。

●事務局 57ページをお開きいただきたいと思います。人にやさしい福祉のまちづくりでございまして、関連指標でございます。①は市営住宅のバリアフリー化率でございまして、平成17年19.77%、平成20年が21.54%でございます。

それから②が市道歩道施設の電線地中化率及び整備延長でございまして、折れ線グラフがパーセンテージでございまして、平成17年0.02%、平成20年は0.08%でございます。そして棒グラフの方は整備延長でございまして、平成17年43メートルから平成20年は183メートルとなっております。

そして58ページをご覧になっていただきと思います。③八戸公共職業安定所管内の障がい者雇用者数及び雇用率でございまして、棒グラフは障がい者の雇用数でございます。平成17年381人、平成20年は475人でございます。そして雇用率でございますが、折れ線グラフでございます。平成17年は1.36%、平成20年は1.45%になってございます。

それから④は、地域包括支援センター及び在宅介護支援センターの相談件数でございます。平成18年、地域支援包括支援センター、在宅介護支援センター合計で7,477件でございまして、平成20年は見込みで9,500件でございます。

満足度のアンケート調査結果につきましては、平成19年1.03、平成20年1.03、平成21年1.14となっております。以上でございます。

●委員長 はい、いかがでしょうか。

●副委員長 この市営住宅何ていうのは、これ全国の平均導入割合もまだそんなに、市営住宅のバリアフリー化何て言っているの。

●事務局 全国でですか。

●副委員長 バリアフリー化、市営住宅だけ何でこういっているのかなと。

●事務局 本当はいろんな公共施設であるとか、少なくとも公共的な施設の部分は出したいところなのですけれども、その数字が無いものですから。

●副委員長 福祉のところだからね、福祉施設ならわかるけれども、市営住宅だからね。

●事務局 副委員長おっしゃるとおりなのですけれども、数字が無く、この範囲であれば出せるというところでお示ししております。

●委員長 市営住宅、僕もこれは外した方がいいのではないかと思うのですよね。市営住宅

だけの割合だと。

●事務局 では外す方向で。

●委員長 次行きましょうか。

●事務局 次は61ページをお開きいただきたいと思います。子育て支援の拡充でございまして、関連指標でございまして。①は保育所の待機児童数でございまして、平成17年40人でございまして、平成20年は13人でございまして。

②は休日保育実施保育所数及び延べ利用児童数でございまして、棒グラフは平成17年7カ所でございます。棒グラフは休日保育実施保育所数でございまして、平成20年は9カ所になってございます。折れ線グラフは利用児童数でございまして、平成17年1,941人、平成20年3,214人になってございます。

そして③は放課後児童クラブ開設箇所数及び登録児童数でございまして、棒グラフは開設箇所数でございまして、平成17年は24カ所、平成20年は27カ所でございます。折れ線グラフにつきましては登録児童数でございまして、平成17年962人、平成20年は1,180人でございます。

そして満足度のアンケート調査結果につきましては、平成19年0.77、平成20年0.88、平成0.87といった状況でございます。以上でございます。

●委員長 待機児童数はやはり比較データが必要なのではないですか。

よろしいですか。はい、それでは次に行きましょうか。

●事務局 続きまして66ページをお開きいただきたいと思います。66ページは循環型都市の推進と都市緑化の推進でございまして、関連指標でございまして。①八戸市のゴミ排出量を1,000グラム以内にしますということで、マニフェストの数値目標でございまして。最新値でございまして、平成20年度は1,004グラムといった状況でございます。市が黒の折れ線グラフでございまして、三角が全国平均、丸が県平均、米印が類似団体の平均値でございます。

それから②は都市計画区域内の人口1人当たり都市公園等面積でございまして、平成17年は9.3平方メートル、そして平成19年は9.7平方メートルでございまして、米印は類似団体の平均でございます。

満足度のアンケート調査結果につきましては、平成19年1.46、平成20年1.58、平成21年1.69となっております。以上でございます。

●委員長 いかがでしょうか。ここも比較的設定しやすいところかもしれませんね。

はい、では次行きましょう。

●事務局 次は69ページをお開きいただきたいと思います。こちらは地域コミュニティの

再生でございまして、関連指標といたしまして①自治会等の加入世帯率でございまして、八戸市は黒い折れ線グラフでございまして、平成13年は66.4%、平成19年は62.4%となっております。三角は函館市、丸は山形市の状況ということでございます。

それから②でございまして、公民館利用者数及び一人当たりの利用回数でございまして、棒グラフは公民館の利用者数でございまして、平成17年86.2万人、平成19年は89万人でございまして、折れ線グラフは市民一人当たりの利用回数でございまして、平成17年は3.5回、平成19年は3.6回となっております。

そして満足度のアンケート調査結果ですが、平成20年1.30、平成21年1.40となっております。以上でございます。

●副委員長 これね、公民館での対話、それを入れた方が本当はいいですね。満足しているかどうかというやつね。公民館での対話集会をやっているじゃない、市長が。

●事務局 住民自治推進懇談会ですか。

●副委員長 そうそう。この数字は若干古いというか、自治会の加入率とか。昔はこの程度集まったでしょう。最近始めたようなのは、それでも去年も一昨年もやっているでしょうからね。

●事務局 68ページ、今の対応等がですね、事業の方で67番ですが、ここで住民自治推進懇談会の開催事業と。

●副委員長 もちろんそれはそれで結構ですが、関連指標のグラフ。

●事務局 こちらにそのグラフとして、人数とか開催回数をというところでございますか。

●副委員長 満足度調査になるのかな。少ないのだよな1.40とかね。もう少し高いのではないかと思ったのです。

●委員長 これはほとんど68ページに記載していますからね。

●副委員長 昔からの公民館利用者数とか、そういうのばかりではないかもしれないなと思っただけ。

●委員長 はい、では次お願いします。

●事務局 続きまして72ページをお開きいただきたいと思います。72ページは防災・防犯対策の強化でございまして、関連指標です。①は上水道の管路耐震化率でございまして、平

成17年は25.9%、平成19年は30.3%でございます。

②は刑法犯の認知件数でございます、平成17年は2,741件、平成20年は2,130件となっております。

それから次の73ページにまいります、自主防災組織の状況ということでございまして、棒グラフは組織数、平成17年度59団体、平成20年度は68団体でございます。折れ線グラフは組織化率で、平成17年が40.6%、平成20年が48.6%でございます。

また、満足度のアンケート調査結果につきましては、平成19年1.23、平成20年1.28、平成21年1.19という状況でございます。以上でございます。

●**委員長** はい、この①②はやはり他の参考指標があった方がいいのではないかな、比較対象が。

●**事務局** わかりました、確認してそこは。

●**委員長** はい、よろしいですか。では次お願いします。

●**事務局** 続いて75ページにまいります。定期的な市政モニタリング調査の実施という項目でございます、ここは関連指標、実はなかなか事務局で有効な成果指標というものを示すことができなかつたというところでございます。

そして満足度のアンケート調査結果のみをご紹介しますと、平成19年1.0、平成21年1.10という状況になります。

●**委員長** この2-8以降は、どちらかというとも市が公約をしてやること自体がとりあえず目的となっているようなものが多くて、その前のように、いわゆる有効な成果指標がわかりづらいものになっています。特に市政モニタリングのようなものが、長い目で見ると、これが市政にどういう影響を与えているかというのは、うまくすると成果が見えるかもしれませんが、とりあえず1年、2年やってみて、その成果は非常に計りづらいと。そのようなものについてはこの後、特に3のところと比較的多いのです。今回は、先ほど議論がありましたけれども、本当に成果が計りづらいもの、それから成果を見るにあたってやはり長期の時間を要するものについては、無理に評価設定をしないということも一つと考えてはおります。その一つが2-8ということになります。

●**副委員長** 無理に全部評価する必要はないかもしれませんからね。

●**委員長** ただ、進捗をもってとりあえずは評価に変えられるものは、進捗だけで見るということですね。その辺を取るか、それともやはり一つくらいは関連指標を挙げるかというのは、次回までに決めなければならない大きなポイントになります。

はい、次お願いします。

●事務局 続きまして80ページをお開きいただきたいと思います。こちらは周辺自治体との連携と合併の推進、中核市指定でございまして、こちら先ほどと同じく関連指標がなかなかお出しできないといった状況でございまして、アンケート調査の結果ですが、平成20年は1.05、平成21年は1.29といった状況でございます。

●委員長 私は合併の方の研究会、国の方の委員もやっているのですが、10年とか20年単位で見る合併が、良かったとか悪かったとっている成果というのは分析できるのですが、当座のところどうだったかということ进行分析するのはなかなか難しいと。南郷地区のことはまた別なのですけれども、これからの合併することに向けての進捗状況を、その成果まで含めてやるというのはなかなか難しいことで、今回は設定しておりません。これでいいかどうかですね。これは次回も改めてまた伺いすることになると思いますので、何か適切なものがあればそれを取りあえずでも関連指標として設定した方が見てくれはいいのですけれども、そここのところを少し皆さん考えて欲しいと思います。

●副委員長 少し難しいのは、合併に向けてのいろんな動きをしていたかという観点がありますよね。例えばシンポジウムをやるとか、そういうふうなことは、あえてやらなかった考えだったかもしれない。でもそれをネガティブに評価するべきかというところでもない。こういうのは難しいですよ。いろんな批判があるところではありますね。それをどういうふうに我々が評価していくか、これは文章で書いていく。

●委員長 ここは、実施率は100%になっていますので、やってはいるということなのです。

●副委員長 この地域である程度一定の評価がるわけですよ、まあ意見もあります。それに対して、ある程度応えないと何をやっているのだろうなということになりかねない。また少し後でお話しましょう。

●委員長 よろしいですか、はい。

●事務局 それでは続きまして83ページをお開きいただきたいと思います。行革大綱の策定・無駄の削減と民間委託の推進というところでもございまして、関連指標でございまして、4年間で市の経常歳出を2割削減しますということで、これはマニフェストの数値目標でございまして、目標値は平成21年度59億円を削減しようということでございまして、現在の最新値ですが、平成19年度で25.1億円の削減でございまして。

そして次の84ページをお開きいただきたいと思います。②の市職員数及び人口1,000人当たりの職員数でございまして、棒グラフは市の職員数でございまして、平成17年は2,225人、平成21年は2,117人でございまして。四角の折れ線グラフは八戸市の人口1,000人当たりの職員数でございまして。そして米印は全国平均、三角は県平均となっております。

次に③の経常収支比率でございます。こちらは八戸市の数値でございますが、平成17年89.5%、平成19年は88.5%となっております。四角は全国平均、三角は県平均でございます。

次に④実質公債費比率でございます。八戸の状況ですけれども、平成17年17.7%、平成19年17.4%でございます。四角の折れ線グラフが全国平均、三角が県平均でございます。

次に満足度のアンケート調査結果ですが、平成20年1.10、平成21年1.18といった状況でございます。以上でございます。

●**委員長** はい、いかがでしょうか。ここは比較的指標を取りやすいところですね。

●**A委員** 民間委託の推進の部分での指標みたいなものは、何か参考資料みたいなものってできないものでしょうか。

●**委員長** 実施率はあるのですけれども、この職員数を見ると大体、職員数が減少している分で民間委託が伸びているとか、大体これでいいとおもいます。

はい、それでは次をお願いします。

●**事務局** 続きまして86ページをお開きいただきたいと思います。こちらは必要な行政投資の推進でございます。関連指標でございます。八戸市の投資的経費の決算額及び構成比を示したものでございます。棒グラフは決算額でございます。平成17年は70.2億円、平成19年は90.6億円という状況でございます。折れ線グラフはその構成比、歳出に占める構成比を示しております。平成17年度は8.5%、平成19年は10.8%となっております。

満足度のアンケート調査結果につきましては、平成20年1.08、平成21年1.20となっております。以上でございます。

●**委員長** はい、いかがでしょうか。次行きましょうか。

●**事務局** 続きまして89ページをお開きいただきたいと思います。電子自治体の推進ということでございまして、関連指標でございます。市のホームページのアクセス件数でございます。平成17年707万件でございます。平成20年は1,251万件でございます。

そして90ページにまいります。満足度アンケート調査結果につきましては、平成20年が1.06、平成21年1.13という内容でございます。

●**委員長** それでは先ほどの、86ページのところは比較指標が出ていた方がいいよね。関連のところ。

それから電子自治体のところ、どのぐらいの段階に行くか、国際段階で設定があるので、それでどの範囲までいっているかというものを、一応出した方がいいと思うのですけれども。

●事務局 ランクですか。

●委員長 電子自治体の推進度合いというのが、ランキングされているのですよ。双方向になっているかとか、一方的に情報開示しているだけかとか。それは入っていた方がいいですね。

はい、それでは次お願いします。

●事務局 次は92ページをお開きいただきたいと思います。こちらは出前市役所の開催でございまして、関連指標でございまして、出前市役所の開催回数及び要望件数でございまして、平成18年は開催回数が42回、参加人数が932人、要望等の件数は197件でございまして、平成20年は開催回数2回、参加人数は16人、件数は27件という状況でございまして。

満足度のアンケート調査結果は平成20年が1.00、平成21年は1.10といった状況です。以上です。

●委員長 A委員、いかがですか。

これも何か関連指標の中の、比較指標が載っていた方がいいでしょうね。ストレートに一緒にならないにしても。

●事務局 比較指標ですか。

●委員長 ええ。これは独自統計かもしれないので、単純には今言った三つの中で相当するものを見出すのは難しいかもしれませんが、何か一つくらいは、相互に比較できるものがないと。

はい、では次お願いします。

●事務局 続きまして、皆さん疲れたかと思いますが、あと3件でございまして、ここで95ページをお開きいただきたいと思います。ボランティア・NPOとの連携強化でございまして、関連指標でございまして、市民のボランティア1万人計画を実現するというものでありまして、これはマニフェストの数値目標でございまして、最新値は平成20年で16,688人といった状況でございまして。

そして96ページをお開きいただきまして、②地域づくりボランティアの実働数及びボランティアセンター登録者数でございまして、これの折れ線グラフは地域づくりボランティアの実働数でありまして、平成17年は8,503人、平成20年は16,688人でございまして、三角の折れ線グラフは、ボランティアセンターの登録者数でございまして、平成17年は31,503人、平成20年は28,386人でございまして。

③は市民活動サポートセンターの登録団体数でございまして、平成17年は165団体、平成20年は170団体でございまして。

終わりが満足度のアンケートの調査結果でございまして、平成20年1.28、平成21年1.36

となってございます。以上です。

●委員長 はい、いかがでしょうか。比較が一つぐらいあった方がいいのですけれどもね。

●事務局 わかりました、そこは確認して載せさせていただきます。

●委員長 はい、次お願いします。

●事務局 続きまして、99ページをお開きいただきたいと思います。行財政諮問委員会の設置と地元大学等との連携強化ということでございまして、関連指標でございまして、行財政諮問会議の開催数及び提言対応率を書いたものでございまして、行財政諮問会議の開催回数は、この会議自体が18年度、19年度の2カ年で行ったものでございまして、開催回数は平成18年度が5回、平成19年度が2回でございまして、そしてその会議の提言数と対応率でございまして、対応数ですが、提言総数が86件ございまして、対応状況、丸であったもの、丸というのは提案を踏まえた対応に努めたというものが51件、三角というのが、提案等を参考に検討段階というのが35件ございまして、各々丸が59.3%、三角は40.7%といった状況であります。

②は満足度のアンケート調査結果でございまして、平成20年は1.0、平成21年は1.10ということでございまして。以上です。

●委員長 まあこれは、なかなかこれ以上は難しいと思います。

はい、では最後お願いします。

●事務局 それでは101ページでございまして。市役所の利便性向上と市政アドバイザーの新設でございまして、関連指標でございまして。市民相談件数を掲載してございまして、平成16年2,640件でございまして、平成20年は2,666件でございまして。

②は満足度のアンケート調査結果でございまして、平成20年1.00、平成21年1.10といった状況でございまして。以上でございまして。

●副委員長 今何人いらっしゃるの、アドバイザーは。

●事務局 アドバイザーは、今すぐ確認いたしますので。

●副委員長 後でも結構です。

●委員長 という感じで、最後の部分が割りと前半に比べると、公約の単位が小さくなってきています。小さくなってなおかつ行政が、個々の行政対応を規定しているもの多くて、全体として成果評価を設定するのにふさわしくない単位になりつつありまして、この辺を総

括するときどう整理するかという問題があると思います。

ざっと、今前半も特に今日はその辺議論しましたので、個々の指標についてはとりあえず皆さんにご説明したという程度かもしれません。是非、5月一杯までに、この気が付くところ、指標についてご提言いただいて、それを踏まえてまとめたものを、次回はもちろん指標もありますけれども、同時に一つずつ文章を出して、この文章でいいかという確定の作業をしたいと思っていますので、併せて今日話題になりましたけれども、成果関連指標のまとめ方、総括の仕方の部分について一応こちらの考え方は提示させていただいて、それを皆さんに聞く、議論を踏まえて次々回までに、最終決定するというくらいのタイムスケジュールで考えたいというふうに思っております。

●事務局 先ほどの市政アドバイザーですけれども、1名の方です。

4. その他

●委員長 以上、これで大体本日の審議案件は終了となります。何か他にありましたら、お発言ください。また、次回までの期間と、それから次回委員会が重要な機会になりますので、何かありましたらご発言いただければと思います。よろしいですか。はい、では無ければ事務局の方に司会をお返ししたいと思います。

5. 閉 会（午後4時5分）

●事務局 それでは大変長時間にわたりまして、ありがとうございます。事務局からの連絡ですが、次回、先ほど説明でもさせていただきましたが、第3回の市政評価委員会は6月16日、火曜日ということでよろしいでしょうか。時間の方は10時半から、今回は時間が変わりますが、午前10時半から12時でございますが、ただ少しまた伸びる可能性もございますが、場所は今日と同じ第2委員会室を予定してございます。また改めて、開催日時が決定しましたら、事務局から連絡をさせていただきたいというふうに思っております。

それから、先ほどの委員長からもお話がございましたが、6月9日くらいを、一応また皆さんから来週一杯くらいにご意見いただいた上で、6月9日を目処に内容等を送付させていただきたいというふうに思っております。

最後に、本日の謝礼につきましては、6月1日の月曜日にご指定の口座へ振り込む予定としてございます。よろしく願いをいたします。

それでは、これもちまして第2回八戸市市政評価委員会を終了させていただきます。

本日は長時間にわたりまして、本当にありがとうございます。お疲れ様でした。